

令和7年度 国 語 科 授業改善推進プラン

	学 習 状 況		指 導 方 法 ICT端末の活用		補充的な学習 の指導計画	発展的な学習 の指導計画	全校体制・各 学年体制と の連携
	よい点 身に付いていることなど	改善させたい点 身に付けさせたいことなど	今後も継続すること	今後新たに取り組むこと (具体的な授業改善の方向)			
1 年	「話す・聞く・書く・読む」活動において、中学1年生としての基礎・基本の国語力が身に付いており、その力をよりよく伸ばそうとする意欲が見られる。 - 探究活動に対して前向きに取り組んでいる。	基礎・基本の力は身に付いているが、「学習の個性化」「学びの調整力」には格差があるため、個に応じた学びができるよう、指導に工夫を取り入れていく。	- 単元を貫く「ねらい」を指導者も学習者も常に意識することで、その単元で「身に付けたい力」と「身に付いた力」を明確にさせる。 - 効果的な場面で適宜タブレット端末を使用する。	「誰一人取り残さない授業」を常に意識し、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を取り入れた授業を実施する。 - 効果的な場面で適宜タブレット端末を使用する。	既習事項を復習する課題を出すことで、「学習への粘り強さ」を向上させる。	自主的に調べ、取り組む課題を出すことで、「学びに向かう力・人間性等」を向上させる。	国語の授業での取り組みを他教科にも伝え、教科横断的な学びを推進する。
2 年	- 話し合い活動やディベート等「話す」活動に意欲的に取り組むことができている。 - 探究活動に対して粘り強く取り組む姿勢が見られる。	- 意図や目的に応じて文章を書くことに課題があるため、書く前の準備段階を重視した指導を意識する。 - 漢字の習得の課題があるため、定期的に漢字テストを行い、点数が7割以上とれない生徒には再テストを実施する。	- 授業ごとのめあてを意識させ、身に付けてほしい力を明確に示す。 - 他者と意見交換する活動を取り入れ、多角的な視野を養う。 - 意見を共有する場面で、必要に応じてタブレット端末を活用する。	単元を貫く「ねらい」を踏まえ、各授業の「めあて」をその達成に向けて一貫性をもって設定する。	小学校の漢字を範囲にした課題を長期休暇や日常に実施する。	- 音読や暗唱の実施。 - 生徒自らが問いを立て、調査・探求する過程を通して学びを深める学習を取り入れる。	「朝読書」 - 漢字検定。 - 義務教育で学ぶ漢字について年間を通し継続的に取り組む。
3 年	- 授業規律を守り、真面目に学習に取り組む姿勢が見られる。 - ノート・ワーク・プリント学習等の提出物を9割以上の生徒が提出できている。 - グループ活動に協力して取り組む姿勢が見られる。	- 思考・判断・表現の「書く」力に課題がある生徒がいるので単元ごとに作文指導を行い、力を高めていく。 - 話す力を高めるためスピーチ発表やグループワーク等の対話活動を行い、話す力の向上を図る。	- 単元終了後に自分の考えを200字で表現する機会を設けることで、考える力や書く力を養う。 - ワークの新出漢字の小テストや漢字ドリル等で基礎学力の向上を図る。	- 話し合いや発表形式の学習形態を積極的に取り入れ、「思考力・表現力」の向上を図る。 - グループで和歌、俳句などについて発表するとき、Chromebook等を使用する。 - 修学旅行の風景等を俳句に詠み、句会を催す。	- 南中Reading Booksで読書を促す。 - 長期休暇明けや漢字小テストの実施。	音読や暗唱を行い、言語感覚を養う。	「朝読書」 - 漢字検定 - 義務教育で学ぶ漢字について3年間を通し、継続的に取り組む。

和7年度 社 会 科 授業改善推進プラン

	学 習 状 況 等 の 分 析		指 導 方 法		補充的な学習 の指導計画	発展的な学習 の指導計画	全校体制・各 学年体制との 連携
	○ 学力調査結果（内容・観点別の分析） ○ 授業等での生徒の学力・学習状況 など		ICT端末の活用				
	よい点 身に付いていることなど	改善させたい点 身に付けさせたいことなど	今後も継続すること	今後新たに取り組むこと （具体的な授業改善）			
1 年	・課題に対し、チームで協力しながら作業を進め、一人ひとりの役割を果たすことができる。 ・定期テストや宿題で、基礎的な知識や技能を身に付けようと、努力している。	・社会的事象に対し、社会科の見方・考え方を使得自ら疑問を見だし、探究する力を身に付けさせたい。	・協働的な学習を行う際、ICTを使って、資料作成をさせる。 ・発表時にICTを効果的に活用し、分かりやすいプレゼンテーションを行うための一助にする。	・ICTの活用をより充実させ、生徒が主体的に取り組む学習場面を設定する。 ・個人作業レポートをICTで作成する力を付ける。	・ワークや宿題で、自主学習ができる環境を作り、基礎的な知識・技能を定着させる。	・プレゼンテーション発表を行う。 ・ディベートを行い、言語活動の充実を図る。	・都内巡り事前学習の実施。 ・定期テスト前補習教室の実施。
2 年	・主体的で協働的な学習を行うことができる。 ・小テストや定期テストを利用し、基礎的な知識や技能を身に付けようと努力している。 ・社会的事象に目を向け、自らの興味・関心と学習活動を結びつけることができる。	・問いに対し、自分の思考を表現する力を身に付けさせたい。 ・他の分野・単元での学習を生かすことができる、汎用性のある力を身に付けさせたい。	・映像資料を用いて興味・関心を高め、社会的事象への理解を深めさせる。 ・単元のまとめや構想となる問いでICTを使い、意見交換を通して、多様な視点や考え方に気付かせる。	・ICTの活用をより充実させ、生徒が主体的に取り組む学習場面を設定する。	・ワークや補助教材を活用し、基礎的な知識・技能を定着させる。	・SDGsの視点から、世界各地の課題について考察する。	・定期テスト前の質問教室の実施。
3 年	・社会的事象に興味・関心をもち、学習活動に積極的に取り組む。 ・主体的に協働的な学習を行うことができる。 ・小テストや定期テストを利用し、基礎的な知識や技能を身に付けようと努力している。	・問いに対して思考し表現する力を身に付けさせたい。 ・社会的事象に対して自ら疑問をもち、社会科の見方・考え方を使得探究する力を身に付けさせたい。 ・他の分野・単元での学習を生かすことができる、汎用性のある力を身に付けさせたい。	・興味・関心・理解の向上、協働的な学習を目的としてICTを活用する。 ・発展的な問いへの思考のまとめや、意見交換時にICTを活用し、意見を共有することで様々な視点や考え方に気付かせる。	・ICTの活用をより充実させ、生徒が主体的に取り組む学習場面を設定する。 ・思考力・判断力・表現力の育成を目指し、ICTを活用して協働的な学習を行う。	・宿題や小テストの定期的な実施を通し、基礎的な知識・技能を定着させる。	・個人で異なる問いや視点を持ち、調べ学習やレポートを作成する。 ・SDGsの視点から考察する。	・定期テスト前の質問教室の実施。 ・昼休み等を活用した補習の実施。 ・長期休業中の補習教室の実施。

令和7年度 数 学 科 授業改善推進プラン

	学 習 状 況		指 導 方 法		補充的な学習 の指導計画	発展的な学習 の指導計画	全校体制・各 学年体制との 連携
	○ 学力調査結果（内容・観点別の分析） ○ 授業等での生徒の学力・学習状況 など		ICT端末の活用				
	よい点 身に付いていることなど	改善させたい点 身に付けさせたいことなど	今後も継続すること	今後新たに取り組むこと （具体的な授業改善の方向）			
1 年	- 積極的に発言する等主体的な態度で授業に取り組む生徒が8割程度おり、自分の考えを相手に伝えることができる。 - 習熟度別クラスにおいて一人一人の生徒に適した学習ができています。	- 習熟に時間がかかる生徒に対して、基礎学力の向上を図る。 - どこが理解できないのかを確認させ、何度も繰り返して解き直す姿勢を身に付けさせる。	- 一人一人の実態に応じた机間指導を実施し、習熟度別の特性を生かした授業展開を行っていく。 - 図形の学習では、ICT 機器を活用した新たな教材や学習活動を取り入れる。	- Chromebook を活用するなど、ICT 機器を用いて視覚的に理解を深めさせる。 - 教え合いや学び合いの機会を増やす。 - グループ内での問題解決の活動場面を多く取り入れる。	定期テストにおいて、既習内容の定着を図るために、再テスト（リターンズ）を実施する。	標準・発展クラスの学習内容においては発展的な問題を適宜取り入れた授業を展開する。	学習支援員と連携し、一人一人の習熟度に合わせて個別対応を実施していく。
2 年	- 積極的に興味をもって話を聞く等、主体的な態度で授業に取り組んでいる。小集団での意見交換では考えを相手に伝えることができています。 - 習熟度別クラスで、個々に適した学習ができています。	- 問題を解く上で、単純に覚えたものに当てはめるのではなく、論理的に思考する力を付けさせる。 - 解けなかった問題等はどこが理解できないのかを確認させ、繰り返して解き直す姿勢を身に付けさせる。	- ICT機器を使用した復習が各自でできるような教材を提示していく。 - 教師の説明や板書の時間を適度にとりつつ、習熟度別の特性を生かした授業展開を行う。	- Chromebook でデジタル教科書やGeoGebraなどを活用し、視覚的に理解を深めさせる。 - 教え合いや学び合いの機会を増やす。 - グループ内での問題解決の活動場面を多く取り入れる。	- 単元テストで自分の習熟度を確認する。 - 定期テスト終了後に振り返りをさせる。	発展的な問題を取り入れた授業を適宜展開しながら、発展的な問題に取り組ませる。	学習支援員と連携し、一人一人の習熟度に合わせて個別対応を実施していく。
3 年	- 積極的に発言する等主体的な態度で授業に取り組む生徒が8割程度おり、自分の考えを相手に伝えることができる。 - 習熟度別クラスにおいて一人一人の生徒に適した学習ができています。	- 基礎・基本的な学力の定着に向け、都立学力検査の大問1を解く力を確実に身に付けさせる。 - 証明等の問題を解く上で授業やレポートで、論理的な思考を身に付けさせる。	- 一人一人の実態に応じた机間指導を実施し、習熟度別の特性を生かした授業展開を行っていく。 - 補習教室や質問教室を開き、生徒の理解を深める。	- Chromebookを活用するなど、ICT機器を用いて視覚的に理解を深めさせる。 - 教え合いや学び合いの機会を増やす。 - グループ内での問題解決の活動場面を多く取り入れる。	定期テストにおいて、既習内容の定着を図るために、再テスト（リターンズ）を実施する。	発展的な学習内容（入試過去問等）を取り入れ、定着の時間を確保する。	学習支援員と連携し、一人一人の習熟度に合わせて個別対応を実施していく。

令和7年度 理科 授業改善推進プラン

	学 習 状 況		指 導 方 法		補充的な学習 の指導計画	発展的な学習 の指導計画	全校体制・各 学年体制との 連携
	○ 学力調査結果（内容・観点別の分析） ○ 授業等での生徒の学力・学習状況 など		ICT端末の活用				
	よい点 身に付いていることなど	改善させたい点 身に付けさせたいことなど	今後も継続すること	今後新たに取り組むこと (具体的な授業改善の方向)			
1 年	・観察や実験に興味関心が高く、意欲的に取り組むことができる。 ・グループ活動では、他者との意見交換を積極的に行おうとする姿勢が見られる。	・小学校での既習事項を振り返り、見通しをもって学習に取り組ませる。 ・因果関係を明確にした客観的な文章で、観察・実験の結果を表現させる。	・ICT 端末を活用し、調べ学習の機会を設ける。 ・板書を写すだけでなく、教師や生徒の発言、自ら考えたこと、調べたことなどを包括したノートを作成させる。	・ICT 端末を活用して調べたことをスライドにまとめさせ、生徒間で情報を共有する機会を増やす。 ・動画教材を活用し、視聴覚的理解をより深める。	・単元や章ごとに、学習内容の定着度を確認するための問題演習を行う。	・学習した内容に関連付けて、身近な事象を科学的に解説する。	・横断的な学習ができるように教科間および学年間で連携をとる。
2 年	・観察や実験に興味が高く意欲的に取り組むことができる。 ・実験班内で協働して課題を追求していこうとする姿勢が見られる。 ・実験計画を自分達で立てることができる。	・未習や未解決な課題に対して、既習内容から解決の手立てを考え、検証するための実験や観察を計画する。	・観察・実験の結果をクロームブックの共有データシートに記録し、協働的な学びなどに活用する。 ・視覚的に理解を促すために、chromebook で動画教材を活用する。	・観察や実験が難しい内容では、chromebook でシミュレーションなどを活用する。 ・学習内容に関連して、調べ学習を行い、探究の機会を設ける。	・観察や実験のワークシートの取り組み状況によって、個別指導を行う。	・関連する上級学校での学習内容や科学的なトピック、最新の研究成果を取り上げる。	・総合的な学習の時間をはじめ横断的な内容で連携をとる。
3 年	・観察や実験に興味をもって取り組み、考察することができる。 ・実験班で実験方法や結果について積極的に討議し、さらに自らの考えを深めようとする姿勢が見られる。	・実験班で活動した結果を発表することができるので、クラス内で考察したり、討議したりする活動を自主的に行う。 ・別の実験方法や結果の処理方法などを自分たちで考える。	・観察・実験の際にはワークシートを作成し、考察すべきポイントを明確にして、自分の考えを書かせるようにする。 ・動画教材を活用し、視覚的に理解を促す。	・観察や実験が難しい内容では、I C T機器をシミュレーションに活用する。 ・学習内容に関連して、調べ学習を行い、探究の機会を設ける。	・単元や章ごとに、学習の基本的内容を確認するための問題練習や小テストを行う。	・学んでいる内容について上級学校での学びにつながるような発展的内容を紹介する。	・教科横断的な学習内容を調べ、計画的に可能な教科と連携をとる。

令和7年度 音 楽 科 授業改善推進プラン

	学 習 状 況		指 導 方 法		補充的な学習 の指導計画	発展的な学習 の指導計画	全校体制・各 学年体制との 連携
	○ 学力調査結果（内容・観点別の分析） ○ 授業等での生徒の学力・学習状況 など		ICT端末の活用				
	よい点 身に付いていることなど	改善させたい点 身に付けさせたいことなど	今後も継続すること	今後新たに取り組むこと (具体的な授業改善の方向)			
1 年	・授業に取り組む姿勢や発言が積極的である。 ・合唱のパート練習などで、自分たちで主体的に活動しようとする姿が見られる。	・楽譜を読み取る力を向上させるために、計画的に読譜力を付けていく。 ・授業規律を徹底させ、リーダーを中心に合唱活動ができるようにする。	・ICT とスピーカーを用いたパート練習。 ・歌唱を中心として、音楽の基礎的な技能を定着させるために、反復して実践を行う。	・歌唱や器楽の授業では、動画を撮影するなどして、自分の表現の仕方を振り返り、技術向上を図る。 ・chromebook での参考音源などの配布。	・表 現 活 動（歌唱・器楽）が苦手な生徒や読譜力が弱い生徒に個別指導する。	・自分で計画を立て、学習に取り組ませる。 ・発展課題を提示する。	・南中学校の誇りと自信につながるような合唱を、式や合唱コンクールなどで発表する。
2 年	・授業に取り組む姿勢や発言が積極的であり、授業規律を意識している生徒が多い。 ・歌唱のグループ活動や合唱のパート練習などで、自分たちの課題を把握しながら主体的に活動しようとする姿が見られる。	・授業規律を徹底させ、リーダーを中心に合唱活動ができるようにする。 ・歌唱と鑑賞など、複数の分野をつながけながら学習することで、音楽的な見方・考え方を身に付けてさせていく。	・ICT とスピーカーを用いたパート練習。 ・歌唱を中心として、音楽の基礎的な技能を定着させるために、反復して実践を行う。	・歌唱や器楽の授業では、動画を撮影するなどして、自分の表現の仕方を振り返り、技術向上を図る。 ・chromebook での参考音源などの配布。	・表 現 活 動（歌唱・器楽）が苦手な生徒や読譜力が弱い生徒に個別指導する。	・自分で計画を立て、学習に取り組ませる。 ・発展課題を提示する。	・南中学校の誇りと自信につながるような合唱を、式や合唱コンクールなどで発表する。
3 年	・音楽的な見方・考え方をする生徒が、他の模範となっている。 ・歌唱のグループ活動や合唱のパート練習などで、自分たちの課題を把握しながら主体的に活動しようとする姿が見られる。	・授業規律を徹底させ、リーダーを中心に合唱活動ができるようにする。 ・音楽的な見方・考え方を生かして、協働的な学習で思考を共有することにより、表現する力を更に伸ばす。	・歌唱を中心として、音楽の基礎的な技能を定着させるために、反復して実践を行う。 ・グループ学習の協働的な学習により、深い学習につながる授業の工夫をする。	・歌唱や器楽の授業では、動画を撮影するなどして、自分の表現の仕方を振り返り、技術向上を図る。 ・chromebook での参考音源などの配布。	・表 現 活 動（歌唱・器楽）が苦手な生徒や読譜力が弱い生徒に個別指導する。	・自分で計画を立て、学習に取り組ませる。 ・発展課題を提示する。	・南中学校の誇りと自信につながるような合唱を式や行事などで発表する。

令和7年度 美術科 授業改善推進プラン

	学 習 状 況		指 導 方 法		補充的な学習 の指導計画	発展的な学習 の指導計画	全校体制・ 各学年体制との連 携
	○ 学力調査結果（内容・観点別の分析） ○ 授業等での生徒の学力・学習状況 など		ICT端末の活用				
	よい点 身に付いていることなど	改善させたい点 身に付けさせたいことなど	今後も継続すること	今後新たに取り組むこと （具体的な授業改善の方向）			
1 年	・授業に対する姿勢、発言が前向きである。 ・わからないことなどをお互いに教え合うことができる。 ・根気強く取り組もうとしている。 ・感性豊かに工夫しようとしている。	・基礎・基本の徹底を心がける。 ・アイディアの発想の仕方などを示し、豊かな発想力を育む。 ・丁寧に作品に向き合うようにし、作品の完成度を高める。 ・計画的な制作をする。 ・学習や活動の成果を振り返り、今後に活かす。	・各題材の導入では作品の鑑賞や重要語句の確認のために、ICT機器を活用する。 ・制作過程の動画や静止画を使い、制作方法を具体的に示す。	・簡潔な説明を意識し、理解力を高めて円滑に制作が進められるようにし、前向きな気持ちをもたせる。 ・ICT 機器を使いポートフォリオを作成させ、学習の成果を振り返らせる。	・机間個別指導を行う。 ・補充的な学習に必要な参考資料・作品を提示する。	・発展的な学習に必要な参考資料・作品を提示する。 ・学習の成果の自己評価に取り組ませる。	・教室移動を早くし、チャイム2分前着席を継続する。
2 年	・授業の際、前向きに話を聞こうとする態度が見られる。 ・感性豊かに工夫しようとしている。 ・活発に発言したり意見を出し合ったりすることができる。	・指示したことがわからない時があるので、理解力を高める。 ・より一層丁寧に作業をする。 ・アイディアの発想の仕方などを示し、豊かな発想力を育む。 ・丁寧に作品に向き合うようにし、作品の完成度を高める。 ・計画的な制作をする。 ・学習や活動の成果を振り返り、今後に活かす。	・各題材の導入では作品の鑑賞や重要語句の確認のために、ICT機器を活用する。 ・制作過程の動画や静止画を使い、制作方法を具体的に示す。 ・作業と締切を明確に示す。	・簡潔な説明を意識し、理解度を高めて円滑に制作が進められるようにし課題に対して前向きな気持ちをもたせる。 ・ICT 機器を使いポートフォリオを作成させ、学習の成果を振り返らせる。	・机間個別指導を行う。 ・補充的な学習に必要な参考資料・作品を提示する。	・発展的な学習に必要な参考資料・作品を提示する。 ・進度の速い生徒には作品の深め方や幅広い表現方法を提示する。	・チャイム2分前着席を継続する。
3 年	・授業に対する前向きな姿勢が見られる。 ・根気強く取り組もうとしている。 ・活発に発言したり意見を出し合ったりすることができる。 ・感性豊かに工夫しようとしている。	・主体的に授業に取り組み、基礎・基本から応用へ発展する。 ・豊かに発想し、主題を見付け考察しながら作品を深める力を高める。 ・計画的な制作をする。 ・学習や活動の成果を振り返り、今後に活かす。 ・疑問に感じたことを探求しようとする。	・各題材の導入では作品の鑑賞や重要語句の確認のために、ICT機器を活用する。 ・制作過程の動画や静止画を使い、制作方法を具体的に示す。 ・作業と締切を明確に示す。	・感じたことや考えたことなどを記入したり記録に残したりし、美術に対する見方・考え方を高めさせる。 ・ICT 機器を使いポートフォリオを作成させ、学習の成果を振り返らせる。	・机間個別指導を行う。 ・補充的な学習に必要な参考資料・作品を提示する。	・発展的な学習に必要な参考資料・作品を提示する。 ・進度の速い生徒に、高度な課題を与える。	・チャイム着席を継続する。 ・忘れ物、準備不足を減らす。

令和7年度 保健体育科 授業改善推進プラン

	学 習 状 況		指 導 方 法		補充的な学習 の指導計画	発展的な学習 の指導計画	全校体制・各 学年体制との 連携
	○ 学力調査結果（内容・観点別の分析） ○ 授業等での生徒の学力・学習状況 など		ICT端末の活用				
	よい点 身に付いていることなど	改善させたい点 身に付けさせたいことなど	今後も継続すること	今後新たに取り組むこと (具体的な授業改善の方向)			
1 年	- 授業に対して意欲的に参加できる生徒が9割程度いる。 - 授業への興味・関心が高く、多くの知識・技能を習得しようとしている。	- 個人の技術に合わせて指導を行う。 - 単元ごとに、実技試験やレポートを通して、関心・意欲をもたせ、探究心を育てる。 - 学び合いの中でコミュニケーション能力を高める。	- 男女共習の授業形態。 - 知識・理解について試験前にしっかり勉強を行わせるために、各単元の知識の整理を行っていく。 - 保健分野すべてを適正に実施する。	- 授業の初めに本時の目標や目的を明確にする。 - 学習カードの活用で個人の課題を明確にする。 - 単元ごとにレポートの提出を実施する。 - 保健分野については、クラスルーム内にP.P.資料を載せ、いつでもどこでも学習できるようにする。	新体力テストなど、必要に応じ、授業時間外に設定していく。	- 生徒同士の教え合い活動を行う。 - 授業内で行うゲームのルール作りを行わせる。	- 事故や怪我が起きた場合の協力を仰ぐ。 - 体育大会などの全校練習や大会運営を行う。
2 年	- 授業に対して意欲的に参加出来る生徒が9割程度いる。 - 授業への興味、関心が高く多くの知識や技能の習得を得ようとしている。 - 友達や仲間と教え合ったり、一緒に課題を解決したりする姿が多く見られる。	- 個人の技術に合わせて指導を行い、自主的に学習に取り組む力を育む。 - 単元ごとに、実技試験やICTの活用を通して、意欲や関心をもたせ、探究心を育てる。 - 学び合いの中で、コミュニケーション能力を高める。	- 男女共習の授業形態。 - 授業の目的や目標を毎時間掲示して、知識の定着を図る。 - chromebookを用いて、動画の資料やPDF資料を配布する。 - 保健分野については、chromebookにP.P.資料を載せていつでもどこでも学習できるようにする。	- 授業の初めに本時の目標や目的を明確にする。 - 学習カードの活用により、さらに個人の課題を明確にする。 - 学習プリントなどは、クラスルームにてデジタル配布する。 - ICT の活用による自他の動きの分析を行う。	新体力テストなど、必要に応じ、授業時間外に設定していく。	- 発展的な課題を提示する。 - ゲームなどのルールを自分たちで考えさせる。	- 事故や怪我が起きた場合の協力を仰ぐ。 - 体育大会などの全校練習や大会運営を行う。
3 年	- 授業に対して意欲的・自主的に取り組む生徒が多くいる。 - 技能を高めるために思考し、自らの考えを実践に移そうとしている姿が見られる。さらに、基礎的な技能が定格し、それらを発展させて行おうとしている。	- 自己の力を伸ばすための知識を習得させ、今、もてる力を理解させる。 - 単元ごとに、実技試験やICTの活用を通して関心をもたせ探究心を育てる。 - 学び合いの中で、コミュニケーション能力を高める。	- 男女共習の授業形態。 - 授業の目的を毎時間説明して、さらなる知識の定着を図っていく。 - 発展的な技能の定着のために、基礎的な運動の反復と発展的な実技の実践をしていく。 - 保健分野すべてを適正に実施する。	- 授業の初めに本時の目的を明確にしていく。 - 学習カードの活用によりさらに個人の課題を明確にしていく。 - 授業で説明した内容などについて、さらに説明を加えていく。 - ICTを活用し自他の動きの分析及び発表をする。	新体力テストなど、必要に応じ、授業時間外に設定していく。	より高い目標に挑戦する為に自分で計画を立てさせる。	- 事故や怪我が起きた場合の協力を仰ぐ。 - 体育大会などの全校練習や大会運営を行う。

令和7年度 家庭科 授業改善推進プラン

	学 習 状 況		指 導 方 法		補充的な学習 の指導計画	発展的な学習 の指導計画	全校体制・各 学年体制との 連携
	○ 学力調査結果（内容・観点別の分析） ○ 授業等での生徒の学力・学習状況など		ICT端末の活用				
	よい点 身に付いていることなど	改善させたい点 身に付けさせたいことなど	今後も継続すること	今後新たに取り組むこと (具体的な授業改善の方向)			
1 年	・礼儀正しく、挨拶・返事ができる。 ・授業内容に興味関心をもち、活発に授業に参加している。	・小学校で学んだ基本的な学習内容の定着。 ・授業中の私語をせず、集中して授業に取り組ませたい。 ・用具の正しい扱い方を知り、安全に実習に取り組ませたい。	・基礎・基本の習得。 ・オンライン課題や作業の手本動画などを授業に取り入れる。 ・体験的な活動を通して家庭科への興味関心をもたせる。	・ポートフォリオを作成させ生徒の実態把握し、個に応じた指導を行う。 ・ICT が使用できない場合の対応や代案を考える。 ・製作の際に本時の目標を自らたてることで、自己理解を深めると共に達成感を感じる体験を増やす。	・ポートフォリオを踏まえて、机間指導で個別指導を行う。 ・班や近隣の生徒との協働学習。 ・必要に応じて、授業外での補講。	・難易度を自分で設定できる課題を作成する。 ・完成度を高められる箇所の声掛け。 ・発展課題の準備。	・2 分前着席、挨拶の徹底。 ・忘れ物をさせない。した場合は自ら報告し代案を考えられるよう指導する。
2 年	・積極的に作業に取り組むなど、意欲が高い。 ・授業内容を身近な内容に置き換えて、実生活にどのように活かすか考えている。	・既習事項の確実な定着。 ・意欲的な反面、指示を聞かずに作業を始めて失敗している生徒も多いため、落ち着いて指示を聞いてから取り組む姿勢を身に付けさせたい。	・基礎・基本の定着と活用。 ・ICT を用いたオンライン課題の活用。 ・説明後に作業するものを配布するなど、生徒の集中をそらさない工夫。	・ポートフォリオを作成させ生徒の実態把握し、個に応じた指導を行う。 ・ICT が使用できない場合の対応や代案を考える。 ・製作の際に本時の目標を自らたてさせ、自己理解を深めると共に達成感を感じる体験を増やす。	・ポートフォリオを踏まえて、机間指導で個別指導を行う。 ・班や近隣の生徒との協働学習。 ・必要に応じて、授業外での補講。	・難易度を自分で設定できる課題を作成する。 ・完成度を高められる箇所の声掛け。 ・発展課題の準備。	・2 分前着席、挨拶の徹底。 ・忘れ物をさせない。した場合は自ら報告し代案を考えられるよう指導する。
3 年	・作業的な学習に意欲的であり、授業内で課題を済ませる生徒が多い。 ・教科書以外から準備した写真や動画への関心が高い。	・自身の生活を振り返り、授業で学んだ内容を実践に移せるようにさせたい。 ・提出物の期限や授業規律などを自ら意識して行動させたい。	・既習事項や ICT を用いた課題を活用し、少ない時数の中でも評価材を確保する。 ・身近な題材を取り入れることで生徒に興味をもたせる。	・ポートフォリオを作成することで計画の見通しをたてる。 ・ICT 課題を用いた協働学習の発表。	・ポートフォリオを踏まえた、個別指導。 ・必要に応じて、授業外での補講。	・難易度を自分で設定できる課題を作成する。 ・完成度を高められる箇所の声掛け。	・2 分前着席、挨拶の徹底。 ・忘れ物をさせない。した場合は自ら報告し代案を考えられるよう指導する。

令和7年度 技 術 科 授業改善推進プラン

	学 習 状 況 等 の 分 析		指 導 方 法		補充的な学習 の指導計画	発展的な学習 の指導計画	全校体制・ 各学年体制 との連携
	○ 学力調査結果（内容・観点別の分析） ○ 授業等での生徒の学力状況 など		ICT端末の活用				
	よい点・伸ばしたいこと	改善したい点、身に付け させたいことなど	今後も継続していくこと	今後取り組んでいくこと (具体的な授業改善の方向)			
1 年	・素直で明るい雰囲気です授業に臨み、学習意欲が高い。 ・礼儀正しく、授業前後の挨拶が元気にできる。	・説明時に私語をしないように集中して、聞くようにさせる。 ・工具などの基本的な使い方を習得させたい。 ・図（平面図・立体図）の見方と描き方を習得させたい。	・3～4名で構成される班で分担し、作業の準備、片付け、清掃等の協力体制を図る。 ・週当たりの少ない授業時数での作業の効率化を図る。 ・ICT を活用して情報モラルの意識を高める。	・安全に作業ができるよう、準備、作業中の手助け、片付けの徹底を図る。 ・提示装置等で細かな作業手順を視覚的に理解させ技術の習得を図る。	・机間指導による個別指導を行う。 ・グループによる協働学習により作業効率を上げる。	・作業進度の速い生徒への追加作業計画の立案	・主体的な学習を補助するため放課後の時間を有効に活用す。
2 年	・明るく活動的な雰囲気です授業に臨むことができる。 ・ものづくりに関する取り組みは意欲的である。	・聞く、書く、話す、作業をするなどの場面ごとのけじめをつけさせたい。 ・集中力がより継続できるようにさせたい。	・3～4名で構成される班で分担し、作業の準備、片付け、清掃等の協力とマナーの育成を図る。 ・週当たりの少ない授業時数での作業の効率化を図る。	・個によって作業の進度が異なってくるため、毎授業作業進度の確認を行う。 ・chromebook を活用し調べた事柄を発表し、その内容を共有する。	・作業の遅れている生徒については個別指導を行う。	・ICT を活用し課題を解決する機会を増やす。	・主体的な学習を補助するために放課後の時間を確保する。
3 年	・多くの生徒は規範意識をもちながら授業に臨むことができ学習意欲は高い。 ・ものづくりに関する関心は高く、その取り組みは良い。	・最上級生でもあるので指示されなくても自ら学ぶ「学びの姿勢」を育てていきたい。	・3～4名で構成される班で分担し、実技学習やその準備・片付け、清掃等の協働的な協力体制の育成を図る。 ・週当たりの少ない授業時数での作業の効率化を図る。	・作業工程と時数を明示し進捗状況を常に意識させて、ものづくりに取り組ませたい。 ・情報分野の製作品によるプログラム学習を行う。	・作業の遅れている生徒については個別指導を行う。	・作業進度の速い生徒への追加作業計画の立案をする。	・補充的な学習をするために放課後の時間の確保をする

令和7年度 英語科 授業改善推進プラン

	学 習 状 況		指 導 方 法		補充的な学習 の指導計画	発展的な学習 の指導計画	全校体制・各学 年体制との連携
	○ 学力調査結果（内容・観点別の分析） ○ 授業等での生徒の学力・学習状況 など		ICT端末の活用				
	よい点 身に付いていることなど	改善させたい点 身に付けさせたいことなど	今後も継続すること	今後新たに取り組むこと （具体的な授業改善の方向）			
1 年	・授業に集中し、意欲的に取り組んでいる。 ・ペア活動やアクティビティに積極的に楽しんで参加している。 ・辞書の引き方や、文字と音の一致が身に付いている。	・基礎基本的な知識を定着させ、それを「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けさせたい。 ・書くことが苦手な生徒が多いため、宿題で書き取りの習慣が付くようにする。	・指導者用デジタルテキストを使用し、単語や本文の確認を行う。また資料映像を見せ、教材の内容に関する興味・関心を高める。 ・生徒が ICT 機器を使用してプレゼンテーションする活動を行う。 ・ICT 機器を使用して提出する課題やテストを行う。	・ICT 機器を活用して、生徒同士で協働作業をしたり、意見を共有したりする活動をより多く取り入れられる。	・学期ごとに可能な限り、補充教室を行う。	・辞書活用の指導を行い、語彙指導から興味関心を広げさせる。	・スピーキングテストに関する情報を共有し、授業でも対策を行う。
2 年	・落ち着いて授業に取り組んでいる。 ・グループ活動やペア活動は誰とでもできる。 ・ビンゴや辞書引きによって単語を聞く力が付いてきている。	・基礎的な文法知識を定着させるために、獲得した知識をその授業内で活用できる目標を設定する。 ・自分の意見や主張を、原因や理由を明確にして伝えることができる力を身に付けさせたい。	・指導者用デジタルテキストを使用し、単語や本文の確認を行い、興味・関心を高め、理解を深める。 ・発表の準備や発表に生徒が自ら ICT を活用できる授業を実施する。	・生徒自身が ICT 機器を使用してスピーチを行ったり、作成した課題を提出したりするなど、ICT を活用した様々な取組を行う。	・英語が苦手な生徒には授業中の課題を少なくして、達成感をもてるようにする。	Picture description を取り入れ、表現の幅を広げさせる。	・英語部会でお互いの授業内容の共有をして、より良い授業ができることを目指していく。
3 年	・多くの生徒が授業に集中し、課題に意欲的に取り組んでいる。 ・授業冒頭のチャンツやペア活動でのアクティビティに積極的に参加し、英語を話すことについての抵抗感は少ない。	・英語で意見や考えを書くときに、相手に伝わりやすいように理由や根拠も示せる力を身に付けさせたい。 ・英語の会話の中で、自分の考えや意見を即興で伝える表現力を身に付けさせたい。	・指導者用デジタルテキストを使用し、単語や本文の確認を行ったり、資料映像を見せたりして、興味・関心を高め、理解を深める。 ・ICT を使用して提出する課題やテストを行う。	・生徒が ICT 機器を使用して課題の提出や取組をこまめに確認できるようにし、学習の積み重ねや調整がしやすい環境を整える。 ・生徒が ICT 機器を使用して、プレゼンテーションやライティングの活動を行う。	・補充教室を長期休みやテスト前などに行う。 ・黒板の板書を画像に残し、Classroom で共有する。	・自ら学習に取り組めるよう、宿題以外の自主課題を設定する。	・教科部会で授業内容や生徒の様子を教員間で情報共有し、生徒の実態に合わせて単元指導計画を調整する。

令和7年度 道徳科 授業改善推進プラン

	学 習 状 況		指 導 方 法		補充的な学習 の指導計画	発展的な学習 の指導計画	全校体制・各 学年体制との 連携
	○ 学力調査結果（内容・観点別の分析） ○ 授業等での生徒の学力・学習状況 など		ICT端末の活用				
	よい点 身に付いていることなど	改善させたい点 身に付けさせたいことなど	今後も継続すること	今後新たに取り組むこと （具体的な授業改善の方向 ）			
1 年	- 教材に興味を持ち、発言意欲も高まっている。 - 学んだことを自分や身近な出来事に結びつけて考えることができる。	- 意見交換を活発に行い、さまざまな立場と見方で考えを広げ、集団生活をよりよく送ろうとする判断力を育てたい。 - 教材の内容を通して自己を見つめ、自分自身の生き方についての考えを深めさせたい。	- 基本は教科書を中心に、生徒の状況に合わせてワークシートを作成、使用し、授業を行う。 - 時事的な資料を活用し授業を組み立てていく。	オンラインアンケートや写真スライド、ドキュメントなど ICT を用いて自分の考えを表現したり、意見を視覚的にわかりやすく集約したりして、相反する意見を踏まえた話し合いを行う。	学級通信、学年通信等で生徒の意見や、さらに考えを深める資料等を紹介する。		学校、学年の生活指導上の課題（生徒の実態）や行事、社会情勢に合わせた内容等の共有。
2 年	- 積極的に自分の意見を述べることができる。 - 自分と異なる意見を否定せず、他者の意見に耳を傾けることができる。 - 気付きや学びについて振り返ることができる。	- 意見交換をより活発に行い、多様な見方、考え方を尊重し、受け止める姿勢を育みたい。 - 自分や学校生活、地域の出来事と関連付けて考え、授業で学んだ価値観を日常生活で意識させたい。	- 基本は教科書を中心に、生徒の状況に合わせてワークシートを作成、使用し、ICTを活用し授業を行う。 - 時事的な資料を活用し授業を組み立てていく。	オンラインアンケートや写真スライド、ドキュメントなど ICT を用いて自分の考えを表現したり、意見を視覚的にわかりやすく集約したりして、相反する意見を踏まえた話し合いを行う。	学級通信、学年通信等で生徒の意見や、さらに考えを深める資料等を紹介する。		学校、学年の生活指導上の課題（生徒の実態）や行事、社会情勢に合わせた内容等の共有。
3 年	- 積極的に自分の意見を述べることができる。 - ワークシートに自分の意見や自分で気付かなかった他人の意見も取り入れてまとめることができる。 - 気付きや学びについて振り返ることができる。	- 意見交換をより活発に行い、多様な見方、考え方があることに気付かせ、自分の考えを再構築できるようにさせたい。 - 自分や学校生活、社会の出来事と関連付けて考え、授業で学んだ価値観を日常生活で意識させたい。	- 基本は教科書を中心に、生徒の状況に合わせてワークシートを作成、使用し、ICTを活用し授業を行う。 - 時事的な資料も活用し授業を組み立てていく。	オンラインアンケートや写真スライド、ドキュメントなど ICT を用いて自分の考えを表現したり、意見を視覚的にわかりやすく集約したりして、相反する意見を踏まえた話し合いを行う。	学級通信、学年通信等で生徒の意見や、さらに考えを深める資料等を紹介する。		学校、学年の生活指導上の課題（生徒の実態）や行事、社会情勢に合わせた内容等の共有。